

シリーズ6

内閣総理大臣を覚えよう！（2）

さあ、今回は内閣史の2回目です。前号でやったように、**明治の内閣総理大臣は「いくやまいまい おやい かさかさか」**で覚えちゃいましょう。他にも覚え方はありますが、**チャンク（かたまり）**で覚えた方が効率も良いし、文章自体は意味がないようでも一挙に覚えられますよ。

今回は大正時代の内閣です！！ **大正時代は「やおて はたかやき」**で覚えてしまいましょう！ただし、明治の「いくやまいまい おやい かさかさか」は、**厳密に言えば、2つめの「さ」、つまり第2次西園寺公望内閣の途中で大正に変わります。だから3回めの桂太郎内閣は大正時代になりません。**

でも、チャンクで覚えた方がいいと思います。「(さ) かやおてはたかやきか」より「やおてはたかやき」の方が覚えやすいし、「かさかさか」は桂園時代でまとめた方がいいと思います。

おおまかにいうと、**大正時代は大正政変で始まり、第2次護憲運動で終わります。大正時代といえは「大正デモクラシー」**です。大正時代は15年しかありませんので、完璧にしましょう。

第2次西園寺公望内閣の時に明治天皇が亡くなり、大正時代が始まります。この第2次**西園寺公望**内閣は、**上原勇作陸相**が天皇へ**帷幄上奏**して辞任した後、後継大臣を陸軍が出さなかったことから**総辞職**を余儀なくされました。

その後に登場した第3次**桂太郎**内閣に対して、「**第一次護憲運動**」が起きます。運動の中心は**犬養毅**を中心とする**立憲国民党（野党）、尾崎行雄**中心の**政友会**（の一部、「与党」です）でした。民衆を巻き込んだ大きな運動によって**第3次桂太郎内閣**は瓦解してしまいます。いわゆる「**大正政変**」です。

その後の立憲政友会は薩摩閥・海軍軍人の**山本権兵衛**首相の与党となります。ついで立憲同志会（桂太郎が結成。立憲国民党の多数が合流）が政党活動から遠ざかっていた**大隈重信**首相の与党になるといよいよつな内閣が続きました。そして、第一次護憲運動の遠因となった2個師団増設を実現したのは第2次大隈内閣でした。**第1次世界大戦に「日英同盟の情誼」を理由に参加するのが大隈重信内閣**でした。

1918年に成立した**原敬内閣**によって、寄生地主・財閥の利益を擁護する立場の立憲政友会は民衆運動を背景に政権獲得を実現しました。**平民宰相**と人気は高い原敬内閣でしたが普通選挙の実現には否定的な姿勢をとり続けました。積極財政を推進する政友会の政治路線のためか賄賂政治が横行したこともあって、原敬は東京駅で暗殺されてしまいました。

その後、1920年代前半には民衆運動が高まり、1920年には新婦人協会、1922年には日本共産党・全国水平社・日本農民組合が結成されました。

1924年に登場した清浦奎吾内閣に対して憲政会（加藤高明）、革新倶楽部（犬養毅）、立憲政友会（高橋是清）の護憲三派が第2次護憲運動を展開し、清浦内閣は倒壊しました。

大正時代の内閣総理大臣

「やおて はたかやき」

- 第16代→（1）（第1次）1913. 2～、薩摩・海軍、政友会が与党
13年：軍部大臣現役武官制の改正、14年：シーメンス事件で退陣
- 第17代→（2）（第2次）1914. 4～、肥前、立憲同志会等が与党
14年：第一次世界大戦に参戦、15年：二十一カ条の要求
- 第18代→（3）1916. 10～、長州・陸軍（山県系）
17年：石井・ランシング協定、西原借款（～18）、
18年：シベリア出兵（～22）、米騒動で総辞職
- 第19代→（4）1918. 9～、立憲政友会総裁、日本で初めての本格的な政党内閣。
18年：大学令
19年：三・一独立運動、五・四事件、野党提出の普通選挙法案を修正
（普通選挙法に反対、納税資格3円へ）、ヴェルサイユ条約
21年：首相暗殺により退陣
- 第20代→（5）1921. 11～、元日銀総裁、立憲政友会総裁
21年：ワシントン会議（～22）
- 第21代→（6）1922. 6～、海軍軍人、政友会と提携
23年：関東大震災の1週間前に首相死去
- 第22代→（7）（第2次）1923. 9～、海軍軍人、少数政党を与党
23年：震災の翌日に組閣、虎の門事件で退陣
- 第23代→（8）1924. 1～、山県系官僚
24：第2次護憲運動—総選挙で敗北、退陣

（1）山本権兵衛

（2）大隈重信

（3）寺内正毅

（4）原敬

（5）高橋是清

（6）加藤友三郎

（7）山本権兵衛

（8）清浦奎吾